

学校ICT導入後の実態アンケート調査結果について

- 調査期間：令和4年12月1日（木）～16日（金） 16日間
- 調査対象者：保護者、教員、小学1年生～中学生3年生
- 調査方法：WEB回答（Google Forms）
- 考察：

（児童生徒）

- ・ 「ICTツールを使った授業は、ICTツールを使わない授業より楽しいですか」という問いについては、小学校低学年の86.3%、高学年の68.0%、中学生の48.7%が「楽しい」と回答。学年が上がるにしたがって、楽しいと感じる割合が低下している。

小学校の数値から考察すると、低学年の数値が高いのは、タブレット端末に触れることが楽しいと考えているからではないかと考えられる。逆に高学年の数値が下がっていることをみると、学習内容の面で楽しさを感じていないことが考えられる。

また中学校においては、これまでも授業で頻繁に電子黒板等が使われていたため「楽しい」という感覚よりも、「普通」と感じていると考えられる。
- ・ 「ICTツールを使用する授業は、使用しない授業より分かりやすいか」という問いについては、小学校低学年の74.5%、高学年の86.0%、中学生の82.0%が「分かりやすい」「少し分かりやすい」と回答。
- ・ 「ICTツールを使用する授業を増やして欲しいか」という問いについては、小学校低学年の88.2%、高学年の78.0%、中学生の64.1%が「増やして欲しい」「少し増やして欲しい」と回答。学年が上がるにしたがって、増やして欲しいと思う割合が低下している。
- ・ 「ICTツールを使用した授業は使わない授業より学習意欲は向上しますか」及び「ICTなどを利用した学習は学力向上につながりますか」という問いについては、どちらも中学生の58.9%が「向上する」「少し向上する」と回答しており、学習意欲と学力向上が比例する結果となった。
- ・ 「家でタブレットやスマホを使用する時間は増えましたか」という問いについては、小学校低学年の31.8%が増えたと回答し、高学年では62.0%が増えたと回答。倍増している。

- 「学校でタブレットを使用するようになって視力は変わりましたか」という問いについては、小学校低学年の 11.8%、高学年の 20.0%、中学生の 15.4%が「悪くなった」「少し悪くなった」と回答。
- 「タブレットを使うようになって首や肩の痛みがあるか」という問いについては、小学校低学年の 23.5%、高学年の 36.0%、中学生の 32.4%が「いつも痛い」「ときどき痛くなる」と回答。
- 「家でタブレットやスマホを使う時のルールは決まっていますか」という問いについては、小学生の 65.1%、中学生の 59.0%が「決まってる」と回答。
保護者のアンケートの「家庭でのルールは決められていますか」という問いとの結果割合に差が出た。タブレットやスマホを持っていない子の家庭にはルールがないので、その差も考えられる。
- 「ルールを守っていますか」という問いについては、小学校低学年の 75.6%、高学年の 71.5%、中学生の 76.5%が「いつも守っている」「ときどき守っていない」と回答。
- 「夜寝るのが遅くなることはありますか」という問いについては、小学校低学年の 39.5%、高学年の 48.0%、中学生の 73.7%が、遅くなることがあると回答。学年が上がるにしたがって、就寝時間が遅くなる傾向にある。
- 「家でタブレットやスマホを使っていて怖い体験をしたことがありますか」という問いについては、小学校高学年の 14.0%、中学生の 7.7%が「ある」と回答。怖い体験は、「ウイルス感染系」が多く、架空請求されたケースもあった。
- また「怖い思いをした」児童生徒のうち、小学校高学年の 57.1%、中学生の 33.3%が「先生や親に連絡しなかった」と回答している。
小学校高学年の半数以上の児童が、怖い思いをしたにも関わらず、「先生や親に連絡をしなかった」と回答していることに驚きと反省を感じる。この結果を真摯に受け止め、「子供が何でも話せる関係づくり」や「メディア安全指導」など、日々子供たちに寄り添い、様々な手立てを講じていく必要がある。
- 「学校でICTが導入されて役に立ったと実感したことはありますか」とい

う問いについては、中学生の 92.3%が「いつも感じる」「ときどき感じる」と回答しており、感じる時としては、「調べ学習」「レポートを作っているとき」「オンライン授業」「電子黒板の活用」などの回答があった。

- 「その他、学校ICTについて意見やお願い事があったら記入してください」という問いについては、小学校高学年から「新しいタブレットが欲しい」「ネット環境を良くしてほしい」などの声があがっているが、令和5年1月から活用するChromebook 及び施設内全体に設置したWi-Fi6により改善される見込み。中学生からの回答はなかった。

(小中教員)

- 「電子黒板やタブレットなどのICT機器はどの程度活用されていますか」という問いについては、52.6%が「ほぼ毎日利用している」、21.1%が「週に3~4回は利用している」と回答しており、全体として73.7%の教員が、週のほとんどでICT機器を利用している状況にある。
- 「今現在の電子黒板やICT機器は使いやすいと思いますか」という問いについては、68.4%が「たいへん使いやすい」「使いやすい」と回答。一方「使いにくい」「不便を感じる」との回答もあり、その理由は、「動きが遅い」「起動に時間がかかる」などであった。令和4年12月のタブレット更新によって改善される見込みだが、電子黒板用の端末や教員の校務支援用端末についても更新の必要性を感じる。
- 「児童・生徒たちの健康的変化（視力の衰え・姿勢等）を感じていますか」という問いについては、73.7%が「あまり変化を感じていない」と回答。一方、26.3%が「多くの人数感じている」「2~3人感じている」と回答しており、注視していく必要がある。
- 「タブレットの使用方法をみてヒヤリ体験をしたことは有りますか」という問いについては26.4%の教員が「いつも感じている」「ときどき感じている」と回答。その理由として、使用中にアダルトサイトの表示や過激な広告が出たことがあげられている。令和4年12月のタブレット更新に伴って導入したiフィルターで抑制を図る。
- 「学校ICTについてのご意見・ご要望」については、「セキュリティ関係の

知識が不足しているため、ポイント等を教えてもらいたい」という要望があった。令和5年度以降、システム業者による教員向け講習会を計画したい。

（保護者）

- 「タブレットやデジタル教科書などのICTツールを家庭でもっと活用して欲しいですか」の問いについては、保護者の57.1%が「活用して欲しい」と回答。一方保護者の4.8%は「減らして欲しい」と回答された。
- 「児童・生徒たちの家庭での健康的変化（視力の衰え・姿勢等）を感じていますか」という問いについては、62.0%の保護者が「大いに感じている」「ときどき感じている」「感じてはいないが気になる」と回答。注視していく必要がある。
- 「児童・生徒のタブレットやスマホの使用方法を見て危険を感じた事がありますか」という問いについては47.6%が「いつも感じている」と回答。その理由として「時間を忘れるほど没頭する」「決められた時間を守らなかったりする」「チャットなど知らない人とのつながりを心配」などがあがっている。
- 「家庭でのルールは決められていますか」という問いについては、81.0%が「決めている」、19.0%が「決まってはいるが注視している」と回答。また「ルールを守って使用していますか」という問いについては、28.6%が「いつも守っている」、57.1%が「ときどき守っていない」と回答しており、ルールが決まっていない家庭のルール設定が望まれる。
- 「夜寝る時間が遅くなることはありますか」という問いについては、42.9%の保護者が「ときどきある」「いつも遅い」と回答。
- 保護者からの要望としては、「漢字や計算、宿題でのタブレットの活用」「ブルーライトカットをできるようにして欲しい」などがあり、令和4年12月のタブレット更新により一部改善される見込みだが、「タブレットを持ち帰ると荷物が増える」という意見もあり、小学校低学年への配慮が必要であると感じる。

（まとめ）

【① タブレット利用による学力向上について】

- 「タブレットを活用した授業の面白さ」については、学年が上がるごとに低

下傾向にあるものの、「授業の分かりやすさ」は、逆に上がっており、中学生の 58.9%が「ICTを活用することで学習意欲が向上し、学力も向上すると思う」と回答している。

- 中学生の「学校ICTが導入されて役に立ったと実感したことはありますか」という問いに、92.3%が「いつも感じる」「ときどき感じる」と回答しており、今後持ち帰りを進めることで、学習意欲と学力の更なる向上に繋がることが期待される。
- 1月からクロームブックが導入されるので、職員研修を通して授業の在り方や考え方の共通理解を徹底し、子供と教師が共に創り上げる授業を目指していく必要がある。

【② 視力や姿勢等身体的問題について】

- 視力については「悪くなった」「少し悪くなった」との回答が、小学校低学年が 11.8%、高学年が 20.0%、中学生が 15.4%、また肩や首の痛みについては、小学校低学年が 23.5%、中学生が 32.4%が「いつも痛い」「ときどき痛い」と回答した。
しかしながら、情報化社会の変化もあり、今回の結果と学校のタブレット使用との相関関係は不確かであると感じる。

【③ 家庭でのルールについて】

- 小学生から中学生まで平均すると、約 6 割が自宅でのルールが決まっていると回答しているのに対し、保護者の回答は 8 割が決まっていると回答しており、児童生徒と保護者の間に意識差が生じている。今一度、家庭でのルールの確認が望まれる。
- 「ルールを守っているか」については、「いつも守っている」に「ときどき守っていない」を加えると、児童生徒の約 7 割、保護者の約 8 割が概ね守っていると思っている一方で、約 2 割の家庭では、ルールが決まっていない様子が窺える。
- 家庭でのルールは何のルールなのかをはっきりさせる必要がある。（例えば「テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットのルール」とか「タブレットとスマホのルール」など）
このルールについては、家庭のみならず、PTA、学校及び教育委員会連携

のもと再確認する必要がある。

【結び】

今回のアンケート結果から、小値賀町の学校ICT機器導入については、学校教育においては、一定の効果が見られると感じました。その一方で、見えてきた課題もあります。その課題については、学校・家庭・地域・PTA・教育委員会が協力して、子供達のよりよい学び・育ちに繋がるよう取り組んでまいります。

ハード面については、令和4年12月のタブレット更新により、改善される見込みですが、セキュリティ面では、児童生徒及び教員・保護者向けの講習などの必要性を感じるため、システム業者や関係機関と連携して、令和5年度以降、取り組んでいきたいと思っております。

また、家庭でのルールについても、今一度、周知徹底する必要性を感じるため、今回の結果を学校及び保護者と共有し、必要な対策を検討します。

なお、今回の結果については、学校及び保護者への情報共有を経て、おぢか新聞やホームページなどで公表し、学校ICT教育の推進について、理解を得ていきたいと思っております。